

仮眠のつもりが
1時間

先月の反省で、受験生としての自覚が
足りない。でも、テストで学年全体の平
均点が上がった。という意見が出ました。
少しずつみんなが受験生の自覚を持っ
てきている中、気持ち加ッワッワッして
います。そんな状態は大きな事故にな
りかねません。後悔しないために、今
頑張りましょう。

Hand-drawn diagram illustrating the components of the name 志保 (Shizuko). The name is written in kanji (志保) and hiragana (しずこ). The hiragana is broken down into its constituent parts: し (shi), ず (zu), こ (ko), and ん (n). The kanji 志 (shi) is shown with its components 心 (heart) and 士 (samurai). The kanji 保 (hiko) is shown with its components 保 (protect) and 子 (child). The hiragana ん (n) is shown with its component ん (n). The diagram is labeled with '名前' (name) and '読み' (reading).

あち向いて
ボム!!

カッ!!

三山ひろしの新曲
「四万十川」が発売!!

わかつたか!!

わかつたか!!

応募ありがとう!!

具体的方策

。提出物を出す

。授業中の態度を改める

今からでも点数を上げることにはできます。

日々の積み重ねが大事です。気をひきしめて頑張りましょう。

今月の目標

一点でも多くの

点数をとろう！

!!

先月の「三山ひろし」の挑戦状の答え

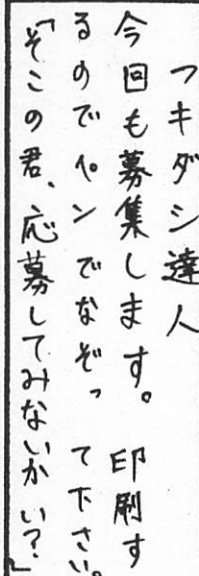
子いもなのでホタテに手が届かないから。

「わかつたか!？」

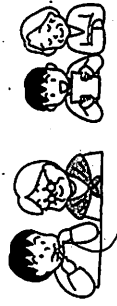
「わかつたか!？」

「食ったかい!？」

「食ったかい!？」



＜認知症サポーター養成講座を受けての感想文＞



H.27.12.5 実施

・「認知症」についての感想は？

●物忘れがひどくなる、という第一印象があったが、物忘れが一部で、状況整理に時間がかかるなど他にも様々な症状があったことに驚いた。対応に関しても、ついきつて返してしまっているのが、ぐっとこらえて相手の立場にたが、考えることが重要なのだ。

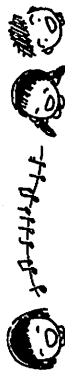


☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

●認知症は、知っていたけど、くわしくは知らなかった。もし、親が認知症になってしまったら、自分の事が全くわからなくなったら悲しいと思った。



●認知症にはいろいろな種類があるというのをきいてびっくりした。知らなかったことをたくさん知ることができた。おもしろかった。



●小さいころ若年性認知症のおばあちゃんを見てきたけれど、やっぱり一番つらくて悲しいのは、認知症になってしまった本人なのだなと思いました。

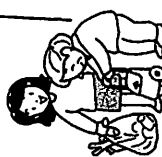


●人にきつくあて、してしまうのが、認知症の人以外に毛やスレく接したかった。不安な高齢者にはやさしくあてられるような人になりたいと思った。



●想像していたよりも大きく症状が出たことを知った。

かなり丁寧に周りの人たちがまてあげなければいけないことがあり、自分もそういう意識が大切だなと思った。なっていました。人はすごいです。



●一番印象に残ったのは、どんなお話ですか？

●DVDで見た、至孝村の希望と望ましくない村の話が、一番印象に残っています。僕も至孝村が、できるような日頃からも、優しく対応したいと思います。



質問で「認知症」の年齢について聞いたところ、65歳・高齢者だけでなく、一種の認知症(?)になることもあり、若い人と40代後半から50代前半ということに驚いた。さらに仕事をしてもな、ということがあるというところが特に印象に残っている。仕事をしているから大丈夫、と安心できないうの、全部部分だと感じた。そう考えると、祖父母だけでなく、母にも可能性があることになることも大切だと思った。

●認知症になった人は、自覚があるということ。今まで「は、認知症は自分で」はわからなかったもの、だと思っていたから、おどろいた。自分が認知症かもしれないという不安とか、とんとん忘れられるのか、ひどくなっている、怖い、たいてい、とわからなければ、とても不安な感じがする。



● 今回の学習を通して私たちにできることは何でしょう？



- 私の家の近所にも、認知症の方がいました。
- 私はその時、対応のしかたを知らず、たのできることとして、対応ができませんでした。今回、認知症についていろいろ学び、ことを知ることができました。今の、今度からは、恥がしさがらず、勇気を出して声をかけてみることを、がでまれば、と思います。

● 今まででは、困っている人がいても、どうやって助け、良いのかわからなかったけれど、今回の学習で、認知症の人にどのような声をかけをするのが、のでまいかが、学べたので、もし困っている人がいたら、助けけるという事が、私たちにできることだと思いました。



● 認知症の方がおられたら、優しく声をかけたいと思います。

- 3つの「はい」 1. 驚かせない 2. 急がせない 3. 自尊心を傷つけない
- を心に置き、対応したいと思います。それと、具体的な対応の7つのポイントを中り接したいと思います。

● 杉山さんがおっしゃったように、大抵は皆、昼間、仕事で地域に「い」ていると、やはり、私たち中学生的な存在が、重要になる、てくるのだと思った。私が住んでいる地域は、高齢者が多いので、特に気を付けたい。地域のなかには、私達が安全に過ごせるように見守、てくれている。だからこそ、私達たちも地域と深く結びついて、お互いに手伝い、支え合うことが大切だと思った。



● 「認知症」と簡単に言っていたけれど、今回学ばせてとても大事な事なんだなと思った。自分たち外、認知症の事をよく理解して、

認知症の方にどう接していくかによって、やがていって思う。

さつく言うのではなく、やさしく理解してもらいように対応していく。

● 日頃から人とせざる時に、優しくしたり、困っている

老人がいたら、できるかぎり助けたいと思います。そして、

自分のおばあちゃんにも、もちろん優しく（今まで以上に）

話して、対応しないといけないなと思います。



● これ、という人がいたら、優しく声をかける。

もし家族に認知症の人がいたら、何度もおなじことをいわれても、毎回おなじ話をきいてあげたり、いっしょになくした方が、たがってあげたりする。

● 不安な人は、高齢者に「さ」げなく、自然に、自尊心

を傷つけないに接すること。

「認知症サポーター」で「あることを表し、認知症の人の家族にたよ、てもらえたら、きに、自らするんて」

いさうけること。

認知症を知らない人に、基本的なことを教えること。

● ことこれから、高齢者の数が増え、認知症の人も増えていくと思つから、なるべく、広いで、優しく接していこうと思った。

